

洋16-150

「インフェルノ」

★★★★★

2016（平成28）年10月29日鑑賞＜TOHOシネマズ西宮OS>

監督・製作：ロン・ハワード

原作・製作総指揮：ダン・ブラウン『インフェルノ』上・中・下（角川文庫刊）

ロバート・ラングドン（ハーヴィード大学教授、宗教象徴学者）／トム・ハンクス

シエナ・ブルックス（ロバートを治療した女医）／フェリシティ・ジョーンズ

ハリー・シムズ（危機統轄機構の総監）／イルファン・カーン

ヴァエンサ（危機統轄機構の現地隊員の女性）／アナ・ウラル

クリストフ・ブシャール（WHO（世界保健機関）の監視・対応支援（SRS）チームの隊長）／オマール・シー

エリザベス・シンスキー（WHO（世界保健機関）の事務局長の女性）／シセ・バベット・クヌッセン

パートランド・ゾブリスト（大富豪の生化学者）／ベン・フォスター

イニヤツィオ・ブソーニ（ドゥオーモ付属美術館の館長）／カエサル・セレモニーニ

2016年・アメリカ映画・121分

配給／ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

＜シリーズ第3作がテレビ放映と共に大公開！＞

ロン・ハワードが監督し、トム・ハンクスがロバート・ラングドン役で主演した『ダ・ヴィンチ・コード』（06年）は大ヒットしたが、これはロバート・ラングドンを主人公にしたダン・ブラウンの原作を映画化したもの（『シネマーム11』26頁参照）。ダン・ブラウンの原作は『天使と悪魔』『ダ・ヴィンチ・コード』『ロスト・シンボル』『インフェルノ』の4作が順次シリーズ化されているが、それを映画化した映画の方は『ダ・ヴィンチ・コード』『天使と悪魔』（09年）（『シネマーム23』10頁参照）そして本作の順番となる。つまり『ロスト・シンボル』が省略され『インフェルノ』が先に映画化されたわけだ。

『ダ・ヴィンチ・コード』も『天使と悪魔』も世界的ブームを引き起こし、ロバード・ラングドン役は先日もクリント・イーストウッド監督の『ハドソン川の奇跡』（16年）で主演したトム・ハンクスの最高の当たり役になっていたから、本作も公開前から大ヒットを予想。したがって、テレビではその大ヒットを補強するかのように、連日『ダ・ヴィンチ・コード』と『天使と悪魔』が放映されたため、私は劇場での本作の鑑賞に合わせて、その両作ともテレビで鑑賞することに。

＜複雑で難解！第1作は？第2作は？＞

ロン・ハワード監督とトム・ハンクスがタッグを組んでダン・ブラウンの原作を映画化した本シリーズは大ヒットしているが、実はその内容は極めて難しい。「最後の審判」こそ誰でもよく知っているが、『ダ・ヴィンチ・コード』にはシオン修道会やテンプル騎士団が登場し、さらに実在のローマ・カトリック教会の組織である「オプス・ディ」の指令で暗殺を続けている修道僧やその背後にある導師の存在も重要なポイントになるから、物語は複雑で難しい。

また、パチカンの神父が幼児への性的虐待事件を引き起こしていたことは『スポットライト 世紀のスクープ』（15年）でも注目された（『シネマーム38』48頁参照）が、『天使と悪魔』ではそのパチカンが舞台になっているうえ「イルミナティ」という聞き慣れない啓蒙主義的な友愛結社かカルト集団かよくわからぬ組織が問題の根源になっていたから、こちらも複雑で難解だった。

それと同じようにシリーズ第3作となる本作では、ダンテの「地獄篇」とそれと共にボッティチエリが描いた「地獄の見取り図」の理解が不可欠になる。そもそも「インフェルノ」というタイトルそのものが「地獄篇」のことだが、キリスト教やダンテの「新曲」に縁の薄い多くの日本人はそんなことすら知らないはずだ。したがって、テレビ放映と共に大公開された本作の鑑賞については、過去2作をあらためて確認することをおすすめしたい。

＜人口過剰問題への処方箋は？＞

日本では『中央公論』2013年12月号、2014年6月号および7月号に発表されたいわゆる「増田レポート」が衝撃を与え、2014年8月中公新書で増田寛也編著『地方消滅』が緊急出版された。そのサブタイトルは「東京一極集中が招く人口急減」で、帯には「896の市町村が消える前に何をすべきか」と書かれている。このように、日本では人口減少による国力の低下が長期的に大問題になっている。ところが全世界的（地球的）規模で見ると、逆に人口過剰が大問題らしい。つまり、21世紀の世界は人口爆発の危機に晒されているわけだ。ちなみに、WHO（世界保健機関）の調査によると、2015年現在約73億人という世界の人口は今後も毎日25万人を越えるペースで増え続けるそうだ。

18世紀のイギリスの産業革命の時代に『資本論』を書いたカール・マルクスならぬトマス・ロバート・マルサスは、その「人口論」の中でこのままではやがて増えしていく人間の数に食料の供給が追いつかなくなると警鐘を鳴らした。これは「新マルサス主義」として現代にも引き継がれているが、本作ではアメリカの有名な生化学者にして大富豪のパートランド・ゾブリスト（ベン・フォスター）は人口爆発による人類破滅の方程式を唱え、メディアを通じて、それを解消するには大災害が起き、人口を激減させるしかないと主張しているそうだから怖い。もっとも、それを口で言うだけなら実害は少ないが、遺伝子工学のスペシャリストであるゾブリストは、信奉するダンテの長編叙事詩『神曲・地獄篇』や、それを主題にしたボッティチエリの絵画「地獄の見取り図」に導かれるように、全世界の人類の半数を死滅させるウィルスを開発し、それを拡散させるという恐るべきテロ計画を立案し、それを実行に移していた。このまま事態が推移すれば、かつてヨーロッパを中心に猛威を振るった黒死病（ペスト）と同じような人類の大惨事に・・・。病院のベッドの上でうなされていたラングドンの脳裏には、そんな地獄絵が何度も錯綜していたが、それは一体なぜ・・・？

＜病室で目覚めると？そしてアクションへ。＞

『ダ・ヴィンチ・コード』は150分、『天使と悪魔』は138分だったのに対し、本作は121分と短い。それは本作ではストーリー展開のスピードを早めたためだ。本作の導入部では重要な2つの示唆がなされるのでそれに注目！その1つは、ラングドンがシエナのパソコンで、ドゥオーモ付属美術館の館長である友人のイニヤツィオ・ブソーニ（カエサル・セレモニーニ）からラングドン宛てに届いていた「われわれが盗んだ物は隠した。『天国の25』」という謎のメールを見発すこと。自分の命を助けてくれたシエナが着替えを捲してくる間に、勝手にシエナのパソコンを借用するというのは大学教授としていかがなもの？と思われるが、ここではあえてラングドンのお行儀の悪さは無視しておこう。

もう1つは、ラングドンの服に入っていた小さなカプセル「バイオチューブ」の中のポインターが壁に映し出した「地獄の見取り図」から、原画ではないアルファベットがちりばめられているのを見発すること。これによって博識なラングドンは、ゾブリストが開発したウィルスの在りかを示すヒントがその中にあることに気づいたが、ウィルスが放たれる予告時間まで、すでに24時間を切っていることがわかったから、さあ大変。ところで、ラングドンはなぜ服の中にチューブを持っていたの？また、病院までラングドンを殺すために追ってきたのは一体誰？

そんな謎を残しながら本作の導入部は手短かに終え、ストーリーは直ちに本筋に入していくことになる。ちなみに、シエナが出してきた着替えはパジャマではなくレッキとしたスーツの上下、Yシャツ、靴だったが、なぜ独身女性の部屋にそんな男物一式の服があったの？

＜舞台はフィレンツェ、ヴェネツィア、イスタンブルへ。＞

本作導入部はフィレンツェを舞台に始まるが、フィレンツェにはパディア・フィオレンティーナ教会、ピッティ宮殿、ヴァザーリの回廊、ロマーナの門、ボーポリ庭園、サン・ジョヴァンニ洗礼堂等々の世界遺産がたくさんある。また、ヴェッキオ宮殿の五百人広間の両壁を飾るはずだったのがミケランジェロの「カッシーナの戦い」とダ・ヴィンチの「アンギアーリの戦い」らしいが、それを巡る「謎」が今でもあるらしい。残念ながら私はイタリアにもフィレンツェにも行ったことがないので、これらを観光したことではないし、もちろんラングドンほどの知識もないが、観光したことのある人には本作はこたえられないはずだ。本作のパンフレットはそれらを舞台としてラングドンとシエナが駆けめぐるストーリーについて詳しく説明しているので、本作の観光ガイドとしてそれらを活用すればなお一層本作への興味が深まるはずだ。

ちなみに、10月15日に観た『ジェイソン・ボーン』（16年）では舞台がアテネ、ベルリン、ロンドン、ラスベガスと移動したが、フィレンツェでウィルスの入ったカプセル発見に失敗したラングドンとシエナは、その後ヴェネツィア、イスタンブルと移動していくのでそれに注目！観客はそれらの舞台でもすばらしい景色とすばらしい建築物を堪能できるはずだ。もっとも、当の本人たちは時間との勝負でウィルスの入ったカプセル発見に全力を注いでいるから、それどころではないだろうが・・・？

＜カプセルを捲せ！ウィルス拡散を防止せよ！＞

『ダ・ヴィンチ・コード』は150分、『天使と悪魔』は138分だったのに対し、本作は121分と短い。それは本作ではストーリー展開のスピードを早めたためだ。本作の導入部では重要な2つの示唆がなされるのでそれに注目！その1つは、ラングドンがシエナのパソコンで、ドゥオーモ付属美術館の館長である友人のイニヤツィオ・ブソーニ（カエサル・セレモニーニ）からラングドン宛てに届いていた「われわれが盗んだ物は隠した。『天国の25』」という謎のメールを見発すこと。自分の命を助けてくれたシエナが着替えを捲してくる間に、勝手にシエナのパソコンを借用するというのは大学教授としていかがなもの？と思われるが、ここではあえてラングドンのお行儀の悪さは無視しておこう。

もう1つは、ラングドンの服に入っていた小さなカプセル「バイオチューブ」の中のポインターが壁に映し出した「地獄の見取り図」から、原画ではないアルファベットがちりばめられているのを見発すこと。これによって博識なラングドンは、ゾブリストが開発したウィルスの在りかを示すヒントがその中にあることに気づいたが、ウィルスが放たれる予告時間まで、すでに24時間を切っていることがわかったから、さあ大変。ところで、ラングドンはなぜ服の中にチューブを持っていたの？また、病院までラングドンを殺すために追ってきたのは一体誰？

そんな謎を残しながら本作の導入部は手短かに終え、ストーリーは直ちに本筋に入していくことになる。ちなみに、シエナが出してきた着替えはパジャマではなくレッキとしたスーツの上下、Yシャツ、靴だったが、なぜ独身女性の部屋にそんな男物一式の服があったの？

本作導入部はフィレンツェを舞台に始まるが、フィレンツェにはパディア・フィオレンティーナ教会、ピッティ宮殿、ヴァザーリの回廊、ロマーナの門、ボーポリ庭園、サン・ジョヴァンニ洗礼堂等々の世界遺産がたくさんある。また、ヴェッキオ宮殿の五百人広間の両壁を飾るはずだったのがミケランジェロの「カッシーナの戦い」とダ・ヴィンチの「アンギアーリの戦い」らしいが、それを巡る「謎」が今でもあるらしい。残念ながら私はイタリアにもフィレンツェにも行ったことがないので、これらを観光したことではないし、もちろんラングドンほどの知識もないが、観光したことのある人には本作はこたえられないはずだ。本作のパンフレットはそれらを舞台としてラングドンとシエナが駆けめぐるストーリーについて詳しく説明しているので、本作の観光ガイドとしてそれらを活用すればなお一層本作への興味が深まるはずだ。

ちなみに、10月15日に観た『ジェイソン・ボーン』（16年）では舞台がアテネ、ベルリン、ロンドン、ラスベガスと移動したが、フィレンツェでウィルスの入ったカプセル発見に失敗したラングドンとシエナは、その後ヴェネツィア、イスタンブルと移動していくのでそれに注目！観客はそれらの舞台でもすばらしい景色とすばらしい建築物を堪能できるはずだ。もっとも、当の本人たちは時間との勝負でウィルスの入ったカプセル発見に全力を注いでいるから、それどころではないだろうが・・・？

＜手紙は憶えている？そしてアクションへ。＞

『ダ・ヴィンチ・コード』は150分、『天使と悪魔』は138分だったのに対し、本作は121分と短い。それは本作ではストーリー展開のスピードを早めたためだ。本作の導入部では重要な2つの示唆がなされるのでそれに注目！その1つは、ラングドンがシエナのパソコンで、ドゥオーモ付属美術館の館長である友人のイニヤツィオ・ブソーニ（カエサル・セレモニーニ）からラングドン宛てに届いていた「われわれが盗んだ物は隠した。『天国の25』」という謎のメールを見発すこと。自分の命を助けてくれたシエナが着替えを捲してくる間に、勝手にシエナのパソコンを借用するというのは大学教授としていかがなもの？と思われるが、ここではあえてラングドンのお行儀の悪さは無視しておこう。

もう1つは、ラングドンの服に入っていた小さなカプセル「バイオチューブ」の中のポインターが壁に映し出した「地獄の見取り図」から、原画ではないアルファベットがちりばめられているのを見発すこと。これによって博識なラングドンは、ゾブリストが開発したウィルスの在りかを示すヒントがその中にあることに気づいたが、ウィルスが放たれる予告時間まで、すでに24時間を切っていることがわかったから、さあ大変。ところで、ラングドンはなぜ服の中にチューブを持っていたの？また、病院までラングドンを殺すために追ってきたのは一体誰？

そんな謎を残しながら本作の導入部は手短かに終え、ストーリーは直ちに本筋に入していくことになる。ちなみに、シエナが出してきた着替えはパジャマではなくレッキとしたスーツの上下、Yシャツ、靴だったが、なぜ独身女性の部屋にそんな男物一式の服があったの？

本作導入部はフィレンツェを舞台に始まるが、フィレンツェにはパディア・フィオレンティーナ教会、ピッティ宮殿、ヴァザーリの回廊、ロマーナの門、ボーポリ庭園、サン・ジョヴァンニ洗礼堂等々の世界遺産がたくさんある。また、ヴェッキオ宮殿の五百人広間の両壁を飾るはずだったのがミケランジェロの「カッシーナの戦い」とダ・ヴィンチの「アンギアーリの戦い」らしいが、それを巡る「謎」が今でもあるらしい。残念ながら私はイタリアにもフィレンツェにも行ったことがないので、これらを観光したことではないし、もちろんラングドンほどの知識もないが、観光したことのある人には本作はこたえられないはずだ。本作のパンフレットはそれらを舞台としてラングドンとシエナが駆けめぐるストーリーについて詳しく説明しているので、本作の観光ガイドとしてそれらを活用すればなお一層本作への興味が深まるはずだ。

ちなみに、10月15日に観た『ジェイソン・ボーン』（16年）では舞台がアテネ、ベルリン、ロンドン、ラスベガスと移動したが、フィレンツェでウィルスの入ったカプセル発見に失敗したラングドンとシエナは、その後ヴェネツィア、イスタンブルと移動していくのでそれに注目！観客はそれらの舞台でもすばらしい景色とすばらしい建築物を堪能できるはずだ。もっとも、当の本人たちは時間との勝負でウィルスの入ったカプセル発見に全力を注いでいるから、それどころではないだろうが・・・？

＜カプセルを捲せ！ウィルス拡散を防止せよ！＞

『ダ・ヴィンチ・コード』は150分、『天使と悪魔』は138分だったのに対し、本作は121分と短い。それは本作ではストーリー展開のスピードを早めたためだ。本作の導入部では重要な2つの示唆がなされるのでそれに注目！その1つは、ラングドンがシエナのパソコンで、ドゥオーモ付属美術館の館長である友人のイニヤツィオ・ブソーニ（カエサル・セレモニーニ）からラングドン宛てに届いていた「われわれが盗んだ物は隠した。『天国の25』」という謎のメールを見発すこと。自分の命を助けてくれたシエナが着替えを捲してくる間に、勝手にシエナのパソコンを借用するというのは大学教授としていかがなもの？と思われるが、ここではあえてラングドンのお行儀の悪さは無視しておこう。

もう1つは、ラングドンの服に入っていた小さなカプセル「バイオチューブ」の中のポインターが壁に映し出した「地獄の見取り図」から、原画ではないアルファベットがちりばめられているのを見発すこと。これによって博識なラングドンは、ゾブリストが開発したウィルスの在りかを示すヒントがその中にあることに気づいたが、ウィルスが放たれる予告時間まで、すでに24時間を切っていることがわかったから、さあ大変。ところで、ラングドンはなぜ服の中にチューブを持っていたの？また、病院までラングドンを殺すために追ってきたのは一体誰？

そんな謎を残しながら本作の導入部は手短かに終え、ストーリーは直ちに本筋に入していくことになる。ちなみに、シエナが出してきた着替えはパジャマではなくレッキとしたスーツの上下、Yシャツ、靴だったが、なぜ独身女性の部屋にそんな男物一式の服があったの？

本作導入部はフィレンツェを舞台に始まるが、フィレンツェにはパディア・フィオレンティーナ教会、ピッティ宮殿、ヴァザーリの回廊、ロマーナの門、ボーポリ庭園、サン・ジョヴァンニ洗礼堂等々の世界遺産がたくさんある。また、ヴェッキオ宮殿の五百人広間の両壁を飾るはずだったのがミケランジェロの「カッシーナの戦い」とダ・ヴィンチの「アンギアーリの戦い」らしいが、それを巡る「謎」が今でもあるらしい。残念ながら私はイタリアにもフィレンツェにも行ったことがないので、これらを観光したことではないし、もちろんラングドンほどの知識もないが、観光したことのある人には本作はこたえられないはずだ。本作のパンフレットはそれらを舞台としてラングドンとシエナが駆けめぐるストーリーについて詳しく説明しているので、本作の観光ガイドとしてそれらを活用すればなお一層本作への興味が深まるはずだ。

ちなみに、10月15日に観た『ジェイソン・ボーン』（16年）では舞台がアテネ、ベルリン、ロンドン、ラスベガスと移動したが、フィレンツェでウィルスの入ったカプセル発見に失敗したラングドンとシエナは、その後ヴェネツィア、イスタンブルと移動していくのでそれに注目！観客はそれらの舞台でもすばらしい景色とすばらしい建築物を堪能できるはずだ。もっとも、当の本人たちは時間との勝負でウィルスの入ったカプセル発見に全力を注いでいるから、それどころではないだろうが・・・？

＜手紙は憶えている？そしてアクションへ。＞

『ダ・ヴィンチ・コード』は150分、『天使と悪魔』は138分だったのに対し、本作は121分と短い。それは本作ではストーリー展開のスピードを早めたためだ。本作の導入部では重要な2つの示唆がなされるのでそれに注目！その1つは、ラングドンがシエナのパソコンで、ドゥオーモ付属美術館の館長である友人のイニヤツィオ・ブソーニ（カエサル・セレモニーニ）からラングドン宛てに届いていた「われわれが盗んだ物は隠した。『天国の25』」という謎のメールを見発すこと。自分の命を助けてくれたシエナが着替えを捲してくる間に、勝手にシエナのパソコンを借用するというのは大学教授としていかがなもの？と思われるが、ここではあえてラングドンのお行儀の悪さは無視しておこう。

もう1つは、ラングドンの服に入っていた小さなカプセル「バイオチューブ」の中のポインターが壁に映し出した「地獄の見取り図」から、原画ではないアルファベットがちりばめられているのを見発すこと。これによって博識なラングドンは、ゾブリストが開発したウィルスの在りかを示すヒントがその中にあることに気づいたが、ウィルスが放たれる予告時間まで、すでに24時間を切っていることがわかったから、さあ大変。ところで、ラングドンはなぜ服の中にチューブを持